

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

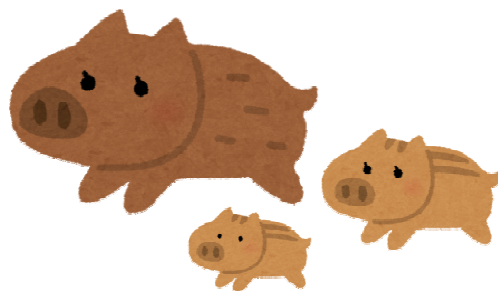
## 「サラリーマンがプロ野球選手に勝てる時代」

プロ野球・ジャイアンツの上原浩治投手(43)が昨年自由契約(その後異例の再契約)となりました。ワールドシリーズで胴上げ投手となったことは記憶に新しいところです。入団1年目から20勝投手となり、沢村賞受賞など、球団にとっては大功労者の部類のはずですが全く厳しい世界です。

彼の43歳という年齢はサラリーマンでいえばまだまだ若輩者扱いです。老後の心配がいらないくらいの蓄えはあるでしょうが、今後どうするのだろうか?と考えさせられます。金銭だけではない「生きがい」「社会とのつながり」を持ち続けられない人間は精神的な問題を抱えがちです。

プロ野球界は成功する者の何十倍の脱落者が存在します。入団1年目では年収400万程度の選手が多く、最近珍しくない大卒新卒者に対する高待遇企業での入社1年目の年収と差がありません。30代以降でも選手として契約できる選手は一握りです。生涯収入を考えるとプロ野球選手とサラリーマンとの差が無くなる時代がすでに来ています。

それを明らかにしたのは「プロ経営者」「カリスマ経営者」たちの巨額役員報酬の実態がクローズアップされた日産自動車問題でしょう。カリスマ経営者カルロス・ゴーンの功績である情け容赦ない組織の組み換えもプロ野球の世界では日常的なドライな決断と重なります。両者の金銭・仕事観の距離は確実に狭まっていると思います。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「先生、どうにかできませんか。」

千葉県野田市で起こった痛ましい児童虐待事件がメディアで大きく取り上げられています。小学4年生(10)がいじめアンケートに書き記した「先生、どうにかできませんか」の1行の叫びを受け止められなかった周囲の大人たちは、道端に人が倒れていても見なかったことにして救急車も呼ばずにその場をやり過ごす人間だったこととなります。

モンスタークレマーへの対応に恐怖するあまり、こどもの生命の危険を盾に身を守ったのです。「ひみつを まもりますので しょうじきに こたえてください」と書かせたアンケート用紙のコピーを虐待している親に渡すことで安堵していたのなら、闘うべき仕事につく大人がこどもを置いて逃げ出したことになるでしょう。亡くなった児童がそのコピーを親から見せられた瞬間の気持ちを思うとやりきれないのです。

法治国家では人は法によって守られます。多くの争いごとは法を持ち出さずとも、人の正義感と知恵でカタがついています。その調整中に予期せぬ犠牲者が出るような社会ならば法を拡大整備して強制力を高めるしかないのでしょうか。今回の悲しい出来事がそうした社会の到来を予感させます。

事件に関わった教育関係者は、「職責を全うした」と生命を失った児童に申し開きができるでしょうか。ひとりのクレマーから逃避したいあまり、肝心なところで組織をつかった対応が出来ず、担当者以外は報告だけを聞いて当事者になりたがらなかった姿勢は、あまりに無責任で大人らしくない。「先生、どうにかできませんか。」の問いに対する打つ手を提示する教職員が現れないのはどうしてなのでしょう。(つづく)



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「紅白饅頭の思い出」

3月折り返しの先週、多くの教育機関で卒業式が行われたことでしょう。人生の節目となる卒業式を経て社会人としての新たなスタートを切る卒業生達は、程なくそれまでの自分がいかに社会から守られてきた存在であったかを身にしみてわかることでしょう。

入学式や卒業式、入社式といった節目の慶事には紅白饅頭が配られた思い出が鮮明にあります。当時は菓子箱を受け取っても食欲をかき立てられたり、すぐに箱を開けたくなるような喜ばしい気持ちにはならなかったものです。

お祝い事には「紅白饅頭」。日本人として生まれてから刷り込まれたのか、ひょっとすると民族の記憶としてDNAに刻まれているのかもしれない。

当社では毎年、新入社員に紅白饅頭を配ります。世の中が変わっても、紅白饅頭に替わるものは思い浮かびません。饅頭の気安さと、どこか床の間に飾りたくなるような丸い形状がいかににも日本的な慶事を連想させるパワーを放っています。

子供の頃、学校行事の後に配られた紅白饅頭を持ち帰ると親がとても喜んでいて記憶があります。それが甘いものを欲していたからでなく、我が子の成長を喜んでのことだったと分かるには人としての成長と歳月が必要でした。入社式で新入社員に配る紅白饅頭にも経営者として彼らの人生の節目に立ち会うことの喜びと祝福の気持ちを添えています。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎



私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「高卒新入社員15名の入社式を行いました」

桜前線が首都圏にもようやく差しかけた4月1日、民間企業の多くが新年度入りを迎えた節目の日に新入社員の入社式を行いました。当社でも同日、高卒新入社員15名が我々の仲間に加わりました。入社式では私がひとり一人に配属辞令を手渡します。その時の不安を隠せない反面、何事も吸収してやろうとする真剣さと意気込みが入り混じった表情が印象的でした。

当社は今期で創業40周年を迎えます。現在、総合警備業を志向しながら施設警備に軸足を移しつつ交通誘導警備やイベント警備を質・量とも充実させ、おかげさまで売上と営業利益は過去最高の業績を達成する見通しの中堅企業です。

新入社員15名は人生で最初の就職先に当社を選んでもくれた大切な人材です。これより約1か月半の導入研修を受け、さまざまな出会いと仕事を体験してゆきながら、自ら学び、自ら考え、自ら行動する社会人として育ててゆくことも企業の責務と考えます。

時代の変遷とともに世の中は良い方向にばかり進んでいるとは思えません。私ども警備会社へのニーズの高まりは、裏を返せば、日常生活の安心と安全が脅かされている社会の反映とも言えるでしょう。

当社の若手社員には警備業という責任のある仕事にたずさわること誇りを持ちなさいと声をかけています。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎



私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



## 「〇〇は凄かった」からの脱却



当社では夏の甲子園大会県予選開会式会場の駐車場警備のお仕事を毎年いただいております。私も高校野球の大ファンのひとりです。

それにしても、昨今の高校野球選手の鍛えこまれた体格を見るにつけ、確実に20年、30年前の高校生より競技レベルがアップしていると感じます。世代優位の意識も手伝い、「自分が高校生だった頃の選手が肉体・技量とも最高である」と思いたい意識を捨て去ることができませんが、地方局で中継されている県予選を見れば、その差を認めざるを得ません。

投手の球速、打者のスイングスピード、パワー、技術とも圧倒されるような進歩を感じます。昭和時分の県予選1・2回戦などは投手の投げる球が山なりは当たり前、体格も細身で身長170センチ前後の選手が大半でした。身長が180センチもあれば大型選手と言われたものです。最近の190センチクラスで鈍重さを感じさせない身体能力を見せる選手には驚かされます。

どんなスポーツであれ、月日とともにトレーニング方法は着実に進歩しています。それはタイムを競う種目によって証明されます。陸上競技、水泳などで20年～30年間破られない日本記録や世界記録はありません。だからといって過去のアスリート達の記録を卑下するのは間違いでしょう。スポーツ史における進化の過程に軌跡を残した偉大な功績が色あせることは決してありません。

私はスポーツ、とりわけ高校野球について「昔の選手は凄かった」と思い出話をしないのです。経済でも同じことが言え「バブルの頃は凄かった」との話も見方を変えれば、これほど野暮な物言いは無いでしょう。スポーツ選手に倣って、記録を塗り替えればいいだけのことなのですから。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



## 「高校生のイメージ」



朝の通勤時間帯に通学途中の高校生を観察していると一昔前とは比べ物にならないくらい温和で柔らかな生徒たちが増えていると感じます。短いスカート、茶髪にルーズソックスはすっかり姿を消し、紺地のハイソックスに黒髪の女生徒と、スポーツシューズにリュック姿で髪型のおしゃれとは無縁のような男子生徒ばかりとなり、全くひねくれた素振りもありません。

そういえば学生カバンに、革靴姿の生徒も見掛けません。堂々と路上で喫煙する生徒ともすれ違うことが無くなりました。その昔、ツッパリ生徒の代名詞であった極太ズボンにパンチパーマの生徒もいなくなりました。このような変化はどうして起きたのでしょうか？

「時代の変化」を答とするのは曖昧過ぎます。「ゆとり教育の成果!!!」でもないでしょう。その近似解は「経済の収縮」であると思います。高校生の欲求が向かう選択肢が経済悪化で大きく狭まったことや、小遣いの大半が通信費に充てられる影響が大きいでしょう。昔、1箱200円で買えたタバコも今や500円となり、カッコ良さよりバカバカしさが上回る「コスト」として意識された結果、高校生の喫煙が激減したと見るべきです。

先日、近隣の高校に足を運ぶことができました。数十年前の学校観で少し緊張して校門をくぐったのですが、体育の授業準備中の生徒達に「こんにちは!!!」と挨拶されました。玄関でも、廊下のいたるところでも、外部の人間とわかる私に対して挨拶してくれるのです。

その光景は自分が持っていた高校生のイメージがいかに時代遅れであるのかを痛感させられる出来事でした。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「勤労者のモチベーションが低すぎる日本」

「令和の世となれば、人心が一新されて経済の流れが変わるかもしれない。」などと淡い期待をもっていたのですがそんなに上手い話は無かったようです。せめて少しばかり勘違いをさせてくれるようなご祝儀相場と言われる「株高」現象でも起きてくれればその可能性は十分あったと思います。

新元号を戴いた5月以降、日経平均株価は20000円割れ寸前を低迷するのがやっどです。米国株式市場の指標であるダウ平均が7月半ばに史上最高値を更新したのとは雲泥の差です。

このところの日本株の低迷は「米国金利の低下→ドル売り/円買い→円高→輸出企業の業績悪化」を先読みした投資家の売り姿勢によるものです。目先の動きは相場観で説明出来ても、日経平均株価が30年前から未だに約半値、NYダウは約10倍になっている現実を前にすると、もっと深刻で根深い問題があると考えてしまいます。

日本経済が「悪くないのに、良くもない」のではなく「悪くても、良くしようとしない」思考が蔓延するのがこの国の危うい点です。30年間も高値を抜けない株式市場の停滞は、詰まるどころ「勤労者のモチベーションが低すぎる日本」の姿そのものように見えてくるのです。米国や新興国のような新陳代謝とチャレンジ精神の回転エネルギーがこの国には感じられません。

日本の勤労者が頑張っていることは穴を掘って、埋めるような「作業」ばかりで気持ちが躍動するようなチャレンジに乏しい。経営者も、従業員も、新しいものを恐れてはいけません。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎



私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「投球制限論議に思う」

今夏の暑さには大概の人が音を上げたことでしょう。熱中症で死者が出たニュースが日常茶飯事になっても連日炎天下で屋外競技をさせられるのは地区予選から勝ち上がってきた高校球児しかいません。

私はこどもの頃から暑さが苦手でした。夏休みの野球大会ではピッチャーとして投げるのですが3回を過ぎたころから体力負けして気持ちが悪くなるのです。その記憶が強く残っていて、もし自分が甲子園のマウンドに立っていても、その時エースであろうが決勝戦であろうが「こんな暑い中で投げたくありません。」と監督を困らせたかもしれないのです。

そんな考え方が「根性なし」と切り捨てられるどころか、恐る恐るも肯定的に話が出る時代になったと感じます。超高校級と評判の投手を甲子園出場のかかった県予選決勝戦で登板させなかった先生監督に対し、外野席の反応は様々です。

この登板回避騒動を見ていると、近い将来、監督であっても選手であっても、肩肘の負担の問題以前に「8月の真っ昼間に野球なんかしても全く楽しくないです。」とメディアに言い放って物議を醸す関係者が出てくる予感がするのです。

酷暑、猛暑、熱波が健康を害する危険な状態をもたらそうが、高校球児に死者が出るまで慣例を変える大人は出てこないでしょう。エアコンの利いた部屋でテレビ観戦をしている高校野球ファンはせめてエアコンを切って応援するくらいでない選手達に失礼だと思ふのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「未来に対する提示力」



わずか数十年前までは世界の製造業を日本企業がリードしていました。外国企業が先行開発した商品を軽薄短小化することで海外市場を席捲したのです。そうしたモデルが崩れ、ネジを巻き戻すことすら出来ないのはIT革命に対応できなかったからに他なりません。

携帯電話市場の変遷がその象徴でしょう。いわゆるガラケーまでは電話機を折りたたみ可能にしたことで日本企業は海外勢と勝負出来ました。電話機にカメラを装着することも日本が得意とする展開です。しかし電話機に味付けしようとするとう限界があります。

海外勢が「電話機から情報端末へ、通話からネット情報へのアクセス」に時代のニーズが変わってゆくことに対応できた反面、日本企業はネットへのアクセスはパソコン経由が主流だろうと読み違えたのです。

たった一つの読み違いで大きな市場を一気に失う時代です。同じことが半導体、液晶ディスプレイ、デジカメ市場で起きています。私達がGAFに頼ることに無頓着でいられるのも、日本企業の新しいサービスを生み出す力が衰えていることの裏返しです。

これまでの経験則から導かれたサービスはすでに世の中に存在するはず。そのジレンマに抗う源泉となるものは「未来に対する提示力」を磨くことだと思うのです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。本年も無事新年を迎えることができることを皆様方に感謝申し上げます。当社は2020年3月末まで、今年度卒業生の採用活動を行います。お問い合わせをお待ちしております。

松本 隆一郎